

4・19 法大-文科省へ!

2012年 3月29日
15

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長)書記局通信

キャンパスから原発なくす大運動を!

4・19法大-文科省闘争まで残り3週間を切っている。全国学友は総力で組織戦に決起し、新自由主義大学粉碎と原発再稼働阻止・全原発廃炉に向かって進撃しよう!

4・19法大闘争に総決起しよう!

4・19闘争は第一に、新自由主義大学を粉碎する闘いだ。新自由主義と対決してきた法大闘争は、反原発闘争の中でますますその意義がハッキリしてきている。

法大弾圧と処分にかけた敵の狙いは、学生の団結解体と青年・学生の反乱を予防的に抑え込むことにあった。まさしく新自由主義攻撃そのものだ。しかしこれをうち破って前進してきたのが法大闘争だ。3・11情勢と対決し、キャンパスから反原発の運動を作り出してきた。4・19を新たな出発点に、新自由主義大学をうち破る巨大な学生決起を作り出そう!

4・19闘争は第二に、「教育の民営化」をはね返す闘いだ。「営業権」を掲げてピラマキを規制する法大当局のあり方こそ、「命よりカネ」の最たるものであり、大阪市長・橋下による教育改革攻撃の先取りである。こうした教育破壊と徹底対決して闘おう。

4・19闘争は第三に、団結と組織を守り抜く闘いだ。法大処分撤回闘争は「一人の仲間も見捨てない」という法大文化連盟の呼びかけにこたえて闘われ、学生の団結を守り拡大させてきた。処分は敵の強さの表れではなく、逆に破綻点であることを闘いの中で示してきた。「すべての処分を撤回しろ」を今こそ高々と掲げ、4・



昨年4月22日の法大東電デモ

19闘争を打ち抜こう!

4・19闘争は第四に、学生自治会を建設していく闘いだ。新自由主義大学(原発賛成大学)をうち破る力は学生の団結の中にこそあり、その団結とは学生自治会建設である。法大文化連盟はその原型だ。

4・19闘争は第五に、文科省による「20リシーベルト基準」を撤回させていく闘いだ。昨年4月19日に出されたこの殺人的被曝強制に対して、「フクシマの怒り」と連帯して徹底弾劾を叩きつけよう!

福島大生は昨年10月21日にはキャンパス集会を打ち抜き、10月28日には法大デモと文科省への申し入れ行動に決起している。この福島大生の闘いと団結し、4月19日は昨年を上回る巨大な闘争として大爆発させよう!

新自由主義大学と原発に怒れる学生は4月19日、法大キャンパスへ総結集を! 新入生を大胆に獲得しよう!

「原発再稼働阻止! 不当処分撤回!」 法大包囲デモ

4月19日(木) 正午 法政大学市ヶ谷キャンパス
正門前集合

文部科学省申し入れ-包囲行動

4月19日(木) 15時 経済産業省前テント集合
「20リシーベルト基準」撤回を求める申し入れ書を提出します。
行動終了後の18~20時に屋内会場で総括集会を行います。



昨年10月21日、福大生とともに福大キャンパスで集会!

3・25三里塚集会における動労千葉・田中委員長発言！（抜粋）

全国から集まれたすべての仲間みなさん。どうもご苦勞様です。

何よりも冒頭に、鈴木謙太郎さんの意思を引き継いで、労農連帯の旗を守って闘い抜くことを今日この場でお誓いしたいと思います。

今、反対同盟は本当に大きな新しい一歩を踏み出そうとしている。それが、福島の農民とともに全国農民の総反乱を呼びかける新たな闘いが始まっている。いよいよ、時代が動き始めている。こんな腐りきった断末魔の資本主義体制を打倒する時が近づいているという決意を新たにしました。そのためにも、闘いは現場にあると思います。市東さんの農地を絶対に守りきる。何があっても、全国のすべての力を結集して守りぬくという決意です。

動労千葉はこの間の闘いの中から、間違いなく時代が動き始めていることをつかみとりました。例えばそれが、あの3月11日の福島での1万6千人の結集に表されていると思います。あの集会では、「復興」に流し込もうという反動的な流れと、「何が収束だ！」「すべての問題はこれからじゃないか！」「すべてが非和解的に、人の命を奪いながら進行しているんじゃないか！」という声があつたり合っていました。福島の怒りの声を先頭にして、だけれどもこの声は「すべての原発を止めろ！」という怒りの声の中に大きく結集することができたと思っています。僕らがどういう訴えをするのか、どういう闘いを組織するのかどうかで、これまでの既成勢力の反動・収束を乗り越えて、すべての力が結集する。そういう時代が来たんだということを心からの感動をもって確信しました。

動労千葉が今闘っている全面外注化をめくっても同じです。検査・修繕部門の丸投げ外注化するという攻撃の4月1日実施強行を止めました。けれど、考えてみてください。動労千葉の力は、全体からしたら本当に小さな力です。けれど、この攻撃に10年間立ち向かって、検査・修繕部門、運転関係の外注化だけは止めることができた。だから、僕らの闘いの下に、東労組だろうと、国労だろうと、鉄産労だろうと、現場のすべての労働者が「外注化だけは絶対に反対だ。許すことができない」というそういう大きな声が集まったということです。支配階級の側は、何一つ自信も確信も持てていません。僕らはこの外注化という問題を、これは明確な偽装請負であると社会的に全面的に持ち出しています。もし強行した時には、このことが正面から争われることとなります。万が一これが偽装請負だったなら、この間JRがやった外注化攻撃、非正規化攻撃がいったん全部覆ります。だから強行できない。こういう状況まで追い込んだ。つまり、我々が何を訴え、何を組織するのかで時代が動くということです。

もう一つ、今日報告したいことがあります。動労水戸の仲間たちが、3月23日に全組合員を対象にしたストライキに立ちあがりました。動労水戸の仲間たちは、「福島

原発事故はもう収束した」という攻撃に効して、被災地から引きあげてきた汚染車両の検査と運行を阻止する闘いに立ちあがって、今もなおこの列車の運行を止め続けています。

運転士や車掌は、20*0圏ギリギリまでの乗務運転労働を強制されていて、たった1日の乗務で17μシーベルトとかの被爆をし、積算線量計を持たされて運転をしています。東労組の若い女性労働者が「こんな仕事はできない」と当局に突きつけたら、「何を言ってるんだ。業務命令だ」と。こういう現実の中からストライキに立ちあがりました。僕らは、職場から反原発の闘いに立ちあがっている動労水戸の仲間たちに大きな拍手を送りたいと思います。

僕らがやらなきゃいけないことは明確です。今、労働者がどんな現実に置かれているのか。今、農民がTPPだとか言ってなぶり殺しにされようとしている。労働者も農民も、特に3・11の大震災以降の現実の中で、ある意味では究極の新自由主義攻撃が貫徹され、なぶり殺しにされようとしている。国鉄分割民営化以降の30年間で吹き荒れた新自由主義攻撃は何をもたらしたんですか。格差であり、膨大な非正規職であり、ワーキングプアであり、農業の根本的な破壊です。何が「豊かになる」って言ったんだ！全部嘘だったんだよね。僕らはこの現実に対して、いよいよ団結を取り戻して、すべてに反撃していく時が来ていると思っています。動労千葉は、これからも反対同盟とともに闘い抜く決意を固めています。



3・11に参加した学生の感想

「原発いらない！3・11福島県民大集会」に参加しました。3・11集会は、昨年12月に総理の野田が原発事故は収束したと宣言したのとは対照的に、福島県は原発に対する怒りに満ちていました。この1年間の政府や東電の舐めきった態度や決して消えない内部被曝への恐怖を考えれば当然だと思います。今回の原発事故に関わらず、常に安全なところからしか物事を見れなく、損得しか頭にない政治家や官僚連中には現場の怒りは分からないだろう。経済のために原発再稼働は必要と主張する輩が後を絶たないが、少し調べれば原発のコストは全く安くなく採算に合う発電法とはいえないことが分かる。儲かるのは電力会社だけである。安全性の面では言うまでもない。原発なんかがなくても社会は動かせることは明らかになった。はっきりしていることは、原子力に未来はないということだ。野田らが画策する原発再稼働を絶対阻止し、何も責任をとらない原子カムラの連中の財産を没収して監獄にぶち込んでやろうじゃありませんか！（東北大学2年）